

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



平成 25 年 (2013)
御鎮座 950 年祭

平成 22 年 (2010)

應神天皇壹千七百年式年祭記念
大宮幼稚園創立六十周年記念
大宮八幡祭り (秋の大祭) 号【第 88 号】
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

「はやぶさ」に教えられたこと……	2 頁
大宮幼稚園 創立六十周年……	3 頁
大宮八幡祭り (秋の大祭) 案内……	4 頁
杜の話題……	6 頁
大宮八幡の杜 秋も深まり……	9 頁
初宮詣芳名……	10 頁
秋の大祭社頭風景……	12 頁



大宮幼稚園 創立六十周年

酷暑の厳しい中に百日紅のピンクや白の花房を見ておきますと、何となく潤いが感じられる昨今であります。

今年も祭典委員会や各町の睦会に依る第二十五回神興合同宮入りの打ち合わせ会が始まり、いよいよ大宮八幡祭りが近づいて参りました。

本年は應神天皇七百年式年祭の年であり、去る4月1日に山陵遙拝並びに式年祭を斎行し、ご神徳を景仰申し上げましたが、この一年間の諸祭典、諸行事を式年祭を記念して斎行させて頂き、更なるご神威の発揚を乞い願ひ努めさせて頂いております。

この記念すべき節目の年に奇しくも、当宮設立の大宮幼稚園が創立六十周年を迎える事が出来ました事も意義深い事でございます。

心の混迷が問われている今の世情の中にあつて、国の政策としてハード面での幼保一元化が進みつつありますが、心の教育のベースづくりは幼児期の保育にありとの確信をより一層強く思わせて頂きました。

これまでの大宮八幡宮ならではの神社保育を継続しつつ、より一段と充実させて頂きたく思っております。

この六十周年記念大会と時を同じくして、無人の小惑星探査機「はやぶさ」が約60億キロメートル、7年間に及ぶ宇宙の旅を終えて、本体は大気圏突入のとき燃え尽き、そのカプセルが無事帰還したニュースがありました。

月以外の天体、地球より3億キロ離れた小惑星イトカワに着陸して(岩石を採取し)、地球に戻った事は世界初の快挙と注目されております。



目下カプセルのサンプルコンテナ内部のものを解析中)

これは日本が開発した

新しいイオンエンジンを搭載し、コスト管理・省エネ技術の結晶であります。しかし乍ら、相次ぐアクシデントや故障が何度もあり、又音信不通で行方不明の時もあつて、3年遅れてやっと地球に戻ってきた事は奇跡的であると云われております。これは、この事に当たられた時代の先端を行く日本の科学者や技術者があきらめずに、地上よりの遠隔操作に持てる技術のあらゆる限りを尽くして、時には神々に祈る気持ちで復旧に努力された結果でもあるのです。

このことは、後にプロジェクトを率いられた宇宙航空研究開発機構(JAXA)の川口淳一郎教授の

「はやぶさ」に教えられたこと

宮司 鎌日紀彦

コメントとして『ある所から先は、倫理的、技術的に考えても及ばなくなる。これは自分たちではコントロールしようがないことで、神頼みを精神的な支柱にしていた』と新聞紙上に掲載されておりましたが、教授自身も自ら社寺にお参りされ、スタッフも手分けしてお祈りに行かれたそうでもあります。

そうした絶体絶命のピンチに何度も遭い乍ら、その都度奇跡的に甦り、大気圏に突入する前に地球の姿を一枚撮影して最期に燃え尽き、自ら犠牲となつてカプセルを地上に放つたところに、多くの日本人の共感を呼んだと、「はやぶさ」に人格を与えたかのようにその死を悼まれている教授の心優しい側面も伺えるのです。

我が国には、古来より『人事を尽くして天命を待つ』と云う言葉がありますが、最後の最後まで真心を籠めて必死にあらゆる努力の限りを尽くすと、自ずから神々のご加護があると云うことの実証でもあります。

探査機「はやぶさ」が、月以外の天体より土砂を持ち帰ったことは然ること乍ら、その帰還の快挙は子ども達にも勇気や夢、希望を与えてくれただけでなく、我が国の科学的技術水準の高さが世界に示されたことは、日本の誇りでもあります。

また、その見えざるところで時代の最先端を行く吾が科学技術陣が、日本の伝統の心と優しきを持って、時には神々に祈り感謝をしながら努力されていた事実にも深く感銘を覚えた次第であります。

これも七百年式年祭の年のご神縁に繋がるものと、密かに感激しております。

後日談乍ら、JAXAの後継機については、民主党の事業仕分けにより当初の予算17億円が5,000万円に、更には3,000万円へと削減されていきましたが、はやぶさの帰還と云う成果によって、菅首相は「開発経費については必要な手当て」を配慮するとの事でありました。

丁度今、宇宙より帰還の「はやぶさ」のカプセルやパラシュートが展示・一般公開され、大人気で長蛇の列が出来ていると人々の関心の高さが報じられています。

因みに、「戦後、宇宙を目指そうとした糸川博士(小惑星はイトカワと命名されている)の熱意に、杉並区桃井にあつた旧富士精密の技術陣が応え、日本の宇宙開発はここから始まった。杉並区民はこのことを誇つて良い」と杉並郷土史会史報第二二三号に記載されておりました。

まつりは心の甦りでもあります。

今年の應神天皇七百年式年祭を記念しての大宮八幡祭りに多くの氏子・崇敬者のご参詣を頂き、広大無辺な八幡大神様の輝かしく瑞々しいご神威をお受け頂き、各々のご家庭が明るく楽しくご平安にご繁栄されますようお祈り申し上げます。

(平二二二、八、二記)

大宮幼稚園 鎮守の杜を保育の庭に六十年

大宮幼稚園創立六十周年 奉告祭・記念式典を実施

大宮幼稚園（鎌田紀彦園長）では今年創立六十周年を迎え、かねてより実行委員会を組織し、園舎改修など記念の諸事業を推進、去る6月12日、園児父兄や関係者ら百五十名が参列して創立六十周年記念大会を開催しました。同園は昭和25年3月、設立認可を受け開園、これまで八百余名の卒園児を輩出しています。

12日はまず、午前10時より清涼殿にて記念式典を開催。国歌斉唱に続き、鎌田園長（実行委員長）が「御祭神應神天皇七百年式



年の今年、当園が奇しくも六十年を迎えたことは誠に意義深い。人生でいえば還暦にあたり親子二代の卒園児を出しているが、昨今の世情、人心の荒廃をみると当園の行ってきた心の教育の重要性はいよいよ増している。どんな時代にあろうとも困難に打ち勝つべく、日本の伝統の心を大切にし神々や祖先に感謝し民族の誇りと自信をもつて打ち進んでいく気概を養う、これが当園の心の教育の核心であること式辞を述べました。ついで井口良子副実行委員長が六十周年記念事業の報告を致しました。



次に来賓祝辞に移り、松山東京都神社庁副庁長、川合全国神社保育団体連合会会長、杉並区私立幼稚園連合会の大澤世尊院幼稚園園長がこもごも祝辞。

松山副庁長は「三つ子の魂百までというが、大宮八幡宮の豊かな歴史と自然に囲まれた環境で育まれる教育は他では得られぬ素晴らしい学習効果が期待される」と述べられました。次いで東京都神社保育連合会篠会長、大宮小学校曾我部校長が挨拶。また出席頂いた区私立幼稚園連合会と都神社保育連合会の各園の園長先生方を紹介。続いて新井父母の会会長が「子



大宮幼稚園創立六十周年記念事業 園舎環境改修や環境壁画を

記念事業としては①園舎玄関ホール及び屋根付き玄関門扉廻り改修工事②園舎園庭側外壁への環境壁画制作③園庭補修工事④記念誌の刊行などを行いました。玄関改修については、ホールと職員室の壁を取り除き、園児と教員のふれあいの場を新たに設けました。また玄関屋根庇の設置と門扉取り替えにより神社施設に相応しい玄関とし、雨天時にはオーニング（雨除け）により、傘をささずに通園バスへの乗

供達の輝く笑顔のために保護者の立場から先生方の保育活動をお手伝いしたい」と挨拶。このあと年長組園児一〇八名による園歌の合唱と漢詩「春暁」の素読を披露。田木副実行委員長の発声で万歳を三唱、式典を閉じました。

大蔵区教育委員長が講演

続く記念講演では杉並区教育委員長大藏雄之助氏が「これからの日本教育と幼児教育」と題し講演。

「いま小学校の総合学習の時間で英語学習をするとのプランが出ているが、そのような時間があるなら、まず日本語と日本の礼儀作法をきちっと教えることが大切」と現行教育の問題点を端的に指摘



されました。

奉告祭に続き祝賀会も

正午より社殿にて創立六十周年奉告祭を齎行後、記念祝賀会が催され、杉並区教育委員会井出教育長の祝辞のあと清興として日本舞踊や獅子舞和太鼓の演奏、父母の会制作の「六十周年の歩み」プロジェクト放映などが行われ、和やかなうちに懇談が行われました。

降が出来る様になりました。

環境壁画制作については創立五十年年にもお願いした上海出身の環境壁画家、李増氏に制作頂きました。園庭側より見た園舎の環境壁画は、トリックアートの画法を用い、描かれた動植物が立体感を持ち子供達にも楽しく夢のある壁画となりました。記念誌の刊行については六十年の歩みを記し、現在の保育状況を紹介します。



記念行事は6月12日の六十周年記念式典のほか記念運動会を平成21年10月10日に実施、園庭に「60」の人文字を描きました。また園遊会を同年12月4日に実施、記念植樹とバルーン上げ等を行いました。

應神天皇千七百年式年祭記念

大宮八幡祭り (秋の大祭)

例祭。氏子奉幣祭 第二十五回 神輿合同宮入り



今年では当宮御祭神の應神天皇様が神上
がられましてより七千七百年。この七
千七百年式年祭を記念して大宮八幡祭り
(秋の大祭) が9月15日と18・19日の中
心に斎行され、期間中境内は御祭神のご
神徳を慕う多くの参拝者で賑わいます。

まず15日午前10時より献幣使参向の
もと例祭を斎行、神社本庁より幣帛が大
前に献ぜられます。17日午前、氏子各町
の神輿神霊入れ神事が、また境内、若宮
八幡神社・白幡宮例祭が執り行われます。

翌18日、神賑行事で境内が終日賑わうなか夕刻6時、**宵宮祭**を斎行。翌19日午前10時、**氏子奉幣祭**が斎行され、大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の氏子六地区より真心籠もるご浄財が氏子幣として大前に奉獻され、奉幣使(祭礼委員長)が氏子祈願詞を奏上して氏子の安泰が祈念されます。そして午後6時より**第25回神輿合同宮入り**が行われ、今年も氏子六地区より八基の神輿が表参道より神門内大前に練り込み、高井戸囃子の中、城西随一と云われる神輿振りで境内は熱気と興奮の坩堝と化します。このほか18日には園児民謡踊りや杉並太鼓、方南エイサー踊りなどが、19日には弓の神事小笠原流三三九手挟式や野点茶会が奉納されます。また清涼殿では平安の宮中行事「菊被綿」が再現されます。

神輿神霊入れ神事

大宮八幡祭りの神輿氏子渡御の前に氏子六地区29基の神輿神霊入れ神事が9月17日午前行われます。神輿神霊入れ神事は八幡大神様の御分霊(わけみたま)を神輿にお移しする神事ですが、大神様は神輿に乗って各氏子を廻られ、氏子の生活の隅々まで見せなわし、福をお与え下されます。神霊入れ神事のあと神輿は氏子14カ所の神幸所に奉安され、氏子の皆さんに担がれて町内を巡幸、19日夜には各地区を代表する8基の神輿が神社に合同で宮入り、還幸されます。



大宮八幡祭り (秋の大祭)

祭事

菊被綿神事 9月15日 9月15日

例祭 (献幣使参向) 9月15日

神輿神霊入れ神事 9月17日

若宮八幡神社 例祭 9月17日

白幡宮 各神幸所清祓・宮司巡拝 9月18日

宵宮祭 9月18日

氏子奉幣祭 9月19日

第二十五回神輿合同宮入り 9月19日

神輿神霊返し神事 9月20日

後朝祭 (直会ノ儀) 9月20日

十五夜の神遊び (仲秋祭) 9月20日

神賑行事

弓道奉納射会 9月5日

第12回菊被綿飾り 9月9日

奉納書画行燈 9月9日

献燈提灯 9月9日

大宮幼稚園 園児神輿宮入り 9月15日

大宮幼稚園 園児民謡踊り 9月18日

方南エイサー踊り 9月18日

杉並太鼓 9月18日

高井戸囃子 9月19日

町内神輿渡御・宮入り (昼間) 9月19日

スカウトバザー 9月19日

スカウト神輿宮入り 9月19日

野点茶会 9月19日

舞楽 (佼成雅楽会) 9月19日

小笠原流三三九手挟式 9月19日

第32回 献華いけばな小笠原流展 9月18日

盆栽展示会 9月18日

露 店 「二二〇店」 9月18日・19日

第十二回 菊被綿飾りさくのはきせわたかざ

平安時代に行われていた重陽の節句の宮中行事「菊被綿」飾りが本年も大宮八幡宮りに併せ9月9日～20日まで再現・展示されます。



8日の夕刻菊被綿神事を斎行。拝殿向拝下に設えられた菊鉢に当宮巫女ら奉仕により、色鮮やかに染められた赤・白・黄の三色の真綿が被せられ、翌9日に朝露を含んだ真綿が御日供祭に併せてご神前に献納され、祓いをした後、清涼殿ロビー（前日夕刻、ガールスカウトら被綿奉仕）にて展示されます。

秋の弓道奉納射会に合わせ 弓道場振武殿 神殿祭

大宮八幡祭りの神賑行事 秋の弓道奉納射会に先立つ5日午前8時より、大宮八幡宮振武殿に於いて神殿祭を斎行致します。この神殿祭は、應神天皇壹千七百年式年祭記念の春の大祭より始められたもの。

当日は本殿での参拝に引き続き、振武殿神殿に於いて振武会の門人等が参列し、当日の弓道奉納射会の無事安全、弓の技能上達を祈念致します。

第十四十五夜の神遊び

前日の神輿合同宮入りの熱気も冷めやまぬ秋の大祭最終日の20日（月・祝）夕刻より、大宮の鎮守の杜で仲秋の名月を愛でる、第10回



「十五夜の神遊び」が斎行されます。午後6時よりの仲秋祭に先立ち、献灯神事が行われ社殿前に並べられた二〇〇基を超す竹燈にご参列の皆様と俱に火を灯してからご社殿に参進、祭典が執り行われます。その後、夜の帳も降りて竹燈に揺らぐ火灯りの中、神楽殿に舞台を移し、雅楽と神楽舞を奉奏。次いで午後7時より「月の音舞台」として、琵琶（田原順子氏）と横笛（西川浩平氏）による奉納演奏が行われます。月明かりにすだく鳴虫と笛の音に耳を傾けながら、自然の豊かな神苑でのご陪観は雅と幽玄にひたる至福のひとつときです。どなたでもご自由にご陪観頂けます。

「月見の宴」のご案内

清涼殿では、十五夜の神遊びに因んだ特選料理『月見御膳』をご賞味頂く「月見の宴」を月の音舞台奉奏後（午後8時頃より）開催します。

名月を愛で、古式ゆかしい雅楽の調べや琵琶と横笛の演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」をお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

【月見御膳】 ◎御神酒付

お一人様 5,900円（税込）

『月の音舞台陪観指定席』含む 限定100名

定員に達次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。
※席でも、十五夜の神遊び「月の音舞台」は行われます



◎お土産用大宮八幡銘菓「竹ひめ」
お申し込み・お問い合わせは
大宮八幡宮 清涼殿まで

〇三（三三三二）七五二五

献燈提灯奉納のご案内

大宮八幡祭り（秋の大祭）の間中多くの氏子崇敬者の皆様方をお迎えするに当り、当宮社頭に皆様方のお名前（社名）を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、賑々しくお飾りさせて頂きます。つきましては、左記によりご献燈を賜りたくお願い申し上げます。

記

掲出期間 9月9日から20日まで
初穂料 一燈 一〇,〇〇〇円
申込締切 9月4日（郵送は3日必着）

※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。



毎月・お朔日参りを 致しましょう

毎月1日 朔日祭
毎月15日 月次祭

（どなたでもご自由に参列出来ます。）

杜の話題

春の大祭を奉仕



恒例のわかば祭り(春の大祭)が應神天皇壹千七百年式年祭を記念して5月3日より5日まで行われました。5日午前には宮司以下祭員奉仕により、わかば祭り当日祭

(尚武祭)を齎行。これに先立ち3日には第一日の儀・子供の祭りが行われ、続く第32回稚児行列ではお稚児さん44名を始め、太鼓山車の子供たち30名、また役員総代供奉に今年からりんどう会の役員の皆さんも加り総勢300人が13キロのコースを進みました。

また翌4日にはわかば祭り・第二日の儀及び第10回大宮八幡宮奉式者の集い開催報告祭を齎行。祭典後にはコンサート



「若葉inおのみや」や奉式者の集いを開催。午後には植樹祭が行われ、先着200名の参列者に苗木が授与されました。

大祭期間中、境内では植木市や盆栽展、また和太鼓奉納や古武道演武もあつて薫風香る境内は多くの参拝者で賑わいました。

第11回裏千家献茶式

應神天皇壹千七百年式年祭記念第11回「茶道裏千家今日庵献茶式」が去る5月9日、鵬雲齋千玄室大宗匠ご奉仕により齎行されました。



時刻、宮司以下祭員、大宗匠が参進。宮司祝詞奏上のおと献茶の儀が執り行われ、大宗匠点前の濃茶薄茶が大前に献じられました。当日、裏千家淡交会東京第七西支部による奉賛添釜や同第六西支部による園児茶席も催され、新緑の境内は多くの参拝者で賑わいました。

第7回大宮八幡宮の杜薪能

去る5月15日夕、今年の御祭神應神天皇壹千七百年式年祭を記念し、第7回「大宮八幡宮の杜薪能」が開



催され、時候にも恵まれ、六百余名が陪観されました。この薪能は平成15年よりNPO法人・杉並で能楽を楽しむ会(田木千城夫会長)の主催、杉並区教育委員会と同区文化協会の後援で、野村四郎氏ら観世流の奉仕で行われているものです。

宵闇迫る午後6時、火鑽神事が奉仕され、浄火が篝火に火入れされて薪能を開始。まず第一部として舞囃子「自然居士」と狂言「千鳥」の二番を奉仕。観阿弥の代表作でのちに世阿弥が改訂した「自然居士」。太郎冠者と酒屋の亭主の虚々実々が笑いを誘う「千鳥」。そして第二部では能「土蜘蛛」の一番が奉納されました。病に伏す源頼光の枕辺に怪しげな僧が近づくと、頼光の問い掛けに僧は千筋の糸を投げかけ、蜘蛛の本性を現すが、頼光の名刀の一閃にその場を退散。そして駆けつけた独武者の葛城山の土蜘蛛退治の顛末が、應神天皇壹千七百年の今年に、当宮を創建された源頼義公のご祖先の物語が演ぜられ、陪観者は應神帝を偲んで感慨深げの様子でした。なお区教委の後援により今回の薪能には区内の小中学生80名も陪観しました。

遠宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

式年遷宮奉賛者芳名簿(その3)

平成22年4月1日〜平成22年7月31日
(※一万元以上のみ掲出、順不同)

- 金拾萬円也 宮内貴史 阿部修
- 金伍萬円也 金井良二
- 四反田義美 渡邊良智
- 金貳萬円也 廣瀬泰久
- 鈴木吉章

ご奉賛頂きました奉賛金は、奉賛会を通じて伊勢神宮へお取り次ぎさせて頂いております。
第六十二回神宮式年遷宮に
真心からのご奉賛を致しましょう

馥郁たる香り漂わせ菩提樹満開に

当宮社殿向かつて左側に大きく枝を伸ばしておられます清涼院殿お手植えと伝えられるご神木の菩提樹が、本年は6月中旬より蕾を綻ばせ、黄金色の可愛らしい花をつけ、境内に可愛らしい花の香りを漂わせました。



また、花が散りますと、辺り一面黄色い絨毯を敷いたかの様に輝き、参拝者の目を楽しませておりました。

WCRP 婦人部会総会が

WCRP（世界宗教者平和会議）日本委員会婦人部会の第28回総会が当宮で去る5月18日開催され、鎌田りんどう会会長が当宮より参加しました。正式参拝のあと清涼殿にて総会を開催。宮司の歓迎の挨拶のあと議事に入り平成22年度事業計画などが審議されました。



次いで、「いのちに関する学習会」が開かれ、佼成病院林茂一朗院長が「医者からみたいのちの尊厳」をテーマに講演を行いました。

風祭竜二「切画の世界展」が

当宮「大宮八幡宮之図」の作者、切画師風祭竜二氏の個展「風祭竜二切画の世界展」が5月26日より6月1日の間、千代田区丸の内丸善本店ギャラリーで開催されました。



切画は風祭氏の造語で、従来の切り絵を独自に発展させ、繊細緻密な技法により、光と影のコントラストや多彩な色彩を立体的に描き出す表現方法。今度の個展には十年前に当宮を

描いて奉納された大作「大宮八幡宮之図」や今年の新作「大宮八幡宮神門之図」を始め、各地の神社仏閣や祭り、仏画、歌舞伎など日本の伝統文化をテーマにした作品八十点が展示されました。なお風祭氏には大宮幼稚園でも、園児教育の一環として切画教室を行って頂いております。



大宮八幡宮神門之図

楽しく歩いてボランティア!! 杉並チャリティ・ウォーク

「杉並チャリティ・ウォーク 2010」が去る5月30日行われました。ウォーク2010はNPO法人未来をつなぐ子ども資金の主催、杉並区社会福祉協議会の共催で午前10時より午後3時の間で実施。蚕糸の森公園をスタートして妙法寺郷土博物館→当宮→和田堀公園→南阿佐谷のらん商店街のコースをウォーキング。約1千名の参加者が当宮を散策しました。



授与所御簾を「ご奉納

当宮の熱心な崇敬者である西新宿デンタルクリニック院長の山下（旧姓・鈴木）道也様よりこのほど授

与所御簾が奉納され、去る6月24日午前、奉納奉告祭を斎行。御簾清祓の後、宮司より感謝状が贈呈されました。山下様にはこれまでも社殿前大提灯などをご奉納頂いております。



應神天皇七百年式年祭記念 乞巧奠飾りと乞巧潜り神事が

今年の應神天皇七百年式年祭を記念して、当宮の七夕行事である平安の七夕「乞巧奠飾り」と平成の七夕「乞巧潜り神事」が7月に行われ、神門前の大笹竹には願いを込めた短冊を付ける参拝者が賑わいました。7月1日より15日の間、清涼殿ロビーに再現展示され、今回で12回となった乞巧奠飾り。日本の棚機つ女信仰と中国の織女・牽牛の星祭りなどが合わされ、平安時代より学業技芸



上達の七夕行事として宮中を中心に行われていたもの。短冊のルーツである梶の葉が四周に下げられ書道や詩歌、管弦、裁縫などの上達を祈り、

戌の日詣りは

子育八幡さまの当宮で 安産祈願のご祈禱を！

戌の日早見表

（平成22年9月～平成23年1月）

1月 7日(金)	12月 2日(木)	11月 8日(月)	10月 3日(日)	9月 9日(木)
19日(水)	14日(火)	20日(土)	15日(金)	21日(火)
31日(月)	26日(日)		27日(水)	

BS・GSスカウト募集

大宮八幡宮が育成母体

ボーイスカウト 杉並13組
ガールスカウト 東京62組
10歳以上から小学一年生から小学各年ごとも入団できます。

雅樂器や筆硯等がお供えされました。七夕当日の7日

夕、七夕の神遊び(技芸上達祈願祭)を社殿にて齋行。次いで宮司以下祭員参列員は神門前に参進、梶の葉や五色の布を垂らした「大宮八幡乞巧潜り」を左右左右と潜る乞巧潜り神事が奉仕されました。また4日と11日の日曜夕刻には「雅楽の夕べ」が催され、職員員の技量上達を祈願しました。

杉並区神社総代会役員会が

杉並区神社総代会の役員会が去る7月6日午後、区内の神職総代70名が出席し、当宮で開催されました。役員会は正式参拝後、清涼殿で開会。平成21年度業務報告、同決算報告、伊勢神宮式年遷宮奉賛金納付状況報告などを承認。

続く研修会で東京都神道青年会創立六十周年記念事業として去る3月実施のミヤンマー戦没者慰霊祭参加報告が行われました。



第10回納涼大宮天神まつり齋行

今年の應神天皇壹千七百年式年祭を記念し、天神祭の7月25日夕、第10回「納涼大宮天神まつり」が齋行されました。大宮天神まつりは菅原道真公の御遺徳を偲び学業技芸の向上を祈って平成13年より齋行されているもの。

夕刻、境内大宮天満宮にて天神祭を齋行。清祇が行われ、奉納の書道作品と小中学生や幼稚園児、また一般から公募の書画二百八十点余り、そして第10回を記念して本年新たに奉製された「こどもあかりみこし」が祓い清められました。天神祭奉仕後は「あかりみこし」の初担ぎ。鉢巻きをしたちびっ子達が一生懸命「ワッショイ、ワッショイ」の掛け声をあげ、境内を巡行しました。



次いで「杜のびびきinおみや」が催され、和太鼓・響道宴、同・小泉謙一、サックス・伊澤隆嗣、舞踏・伊藤虹の各氏による和太鼓と舞踏の奉納演奏が行われました。



また神門前広場では「子供のミ二花火の集い」も併せて開かれ、熱帯夜のひとときに涼を求める参拝者の人々で賑わいました。



大祓形代流し旅行房総へ

恒例の大祓形代流し旅行が去る7月27・28日の一泊二日で行われ、南房総の社寺を参拝しました。二行21名は早朝、当宮を出発、東京湾アクアライン経由でまず上総のはだか祭りで行われる上総国一の宮玉前神社を参拝。一宮川で形代流し神事を奉仕のあと清澄寺参拝と鴨川シーワールド見学を行い、鴨川温泉に宿泊。二日目は房州のお伊勢さまと仰がれる安房天津の天津神

寺に参詣、祖師堂参拝や明治天皇ご尊像画の拝観後、金谷より東京湾フェリーに乗船、横浜横須賀道経由で夕刻無事帰着致しました。



八幡太郎義家絵幟

この程絵幟師吉田博之(号・辰晃)作の「八幡太郎義家絵幟」二旗が應神天皇壹千七百年式年祭を記念して当宮にお納められました。これは切画師・風祭竜二氏よりご奉納頂いた「神功皇后武者絵幟」に続くもの。8月1日の清祇の後、ご神前には一対の絵幟が掲げられております。



戦没者慰霊祭齋行

終戦より数えて65年目の8月15日正午より、第27回大宮八幡宮戦没者慰霊祭が齋行されました。慰霊祭は当宮慰霊祭実行委員会の主催により行われ、当宮及び兼務神社氏子地域より出征されたご英霊をお慰めする為、種々の神饌が供えられ、海ゆかばの奉奏・朝日子の舞奉納やご遺族の方々より玉串があげられ、護國の為に散ったご英霊に追悼と感謝の誠が捧げられました。

結婚式参式者芳名(敬称略)

(平成22年4月16日・平成22年8月31日)

マクオイトマン 専村剛・幸子

小林龍彦・佳織 須田伸一・智美

佐藤正明・里奈 藤原義之・起代枝

鳥淵剛史・実千代 中野洋平・多惠后

上条智生・亜子 間宮俊賢・加奈子

大宮八幡の杜 秋も深まり

第32回杉並大宮菊花展

杉並区内外在住の菊愛好家の方々によって、丹精込めて作られた数々の作品が出品される**杉並大宮菊花展**が杉並大宮菊の会主催、杉並区・京王電鉄(株)・サミット(株)の後援で、10月21日から11月23日までの間開催されます。



秋の美りに感謝する新嘗祭

勤労感謝の日の11月23日午前9時より**新嘗祭**が斎行されます。これは、春の祈年祭と対になる

秋の収穫に感謝する祭典です。天皇陛下には宮中神嘉殿に於いてご奉仕され、全国津々浦々の神社でも、秋の豊かな恵みをご神前にお供えして、氏子・崇敬者と俱に感謝致します。



第20回杉並花笠祭り

当宮初冬の風物詩「**杉並花笠祭り**」が12月11日(土)に開催されます。花笠祭りはサミット(株)、(株)サミット・コルモと当宮の共催により催されているもので今年で第二十回を迎えます。



当日は社殿において奉納奉告祭を斎行ののち、神門前メインステージにて御神酒の鏡開き。表参道には山形の特産品や農作物の露店が立ち並び、芋煮や地酒が振る舞われます。また午前午後二回、東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部らの皆様方により、西永福商店街より当宮まで花笠踊りパレードが奉納されます。

神符奉戴式並び大麻頒布

平成23年の新春を迎えるにあたり、氏子・崇敬者や全国の立正佼成会会員の皆様にご神札をお頒布する**神宮大麻頒布式**並びに**氏神社神符等奉戴式**が11月初旬に斎行されます。この奉戴式では、御神前に於いて大宮大麻・三宝荒神などの御神札に御神霊をお遷しし、神宮大麻と併せて頒布始めの旨を大

様にご奉告致しております。

また、年末には、各町会を神職が巡ってご神札や年越の大祓の形代等を頒布致しております。新年を迎えるに当たって各ご家庭や会社の神棚の煤を払い、神宮大麻や氏神様等の新しいご神札をお祀りして、清々しい新年をお迎え致しますよう。



尚、今までお祀りされていた古神札等は、年末より新年10日過ぎ頃まで、境内の古神札納所にてお預かりしております。一年間お守り頂いた感謝を込めてお納め下さい。

秋の大祭後の主な祭典行事

- 10月21日 第32回杉並大宮菊花展
 - 11月23日 月次祭並七五三祝祭
 - 11月15日 新嘗祭
 - 11月23日 第20回杉並花笠祭り
 - 12月11日 天長祭
 - 12月23日 大祓(年越大祓)
 - 12月31日 除夜祭
- 平成23年
- 1月1日 神能「翁」・厄除開運大祈禱 歳旦祭
 - 1月2日 小笠原流毒目の儀・大的式
 - 1月3日 元始祭
 - 1月15日 古札焼納祭(どんど焼)

「平成23辛卯年新春祈禱」のご案内

当宮では、平成23辛卯年の新春にあたり、皆様のご健勝・ご繁栄をお祈りする新春祈禱を1月1日午前0時より連日随時ご奉仕させて頂いております。ご予約をご希望の方は、申込書に諸事項をご記入の上、社頭(授与所)またはご郵送にて12月25日(郵送は24日必着)までにお申込をお願い致します。またお申し込みされた方は、ご祈禱当日には必ず受付票をご持参の上、祈禱受付所にご提示下さい。※御神札には、祈禱名(願意)と代表者名を浄書させて頂きます。

◆厄除開運大祈禱(一番祈禱)について

厄除開運大祈禱は、元旦の午前零時、新春を言寿ぐ神能「翁」の奉奏に続き、先着50件に限り宮司がご奉仕致します。

この一番祈禱にご参列の方々は、厄除開運を祈念した宮司揮毫の干支絵馬と招福熊手等の特別撤下品を授与致しております。

詳しくは、新春祈禱をお申し込みの際、受付にお尋ね下さい。



初宮詣芳名

(平成22年3月23日〜平成22年7月19日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 石黒虹 | 砂長朔太 | 小池真弥 | 加藤海 | 高桑紬 | 原田彩羽 | 磯田紡 | 松本結菜 |
| 永吉梨渚 | 砂長薫平 | 小池晴輝 | 高橋杏 | 山本琥太郎 | 江龍叶真 | 安孫子七緒 | 大館はるの |
| 寺田翔次郎 | 三田早絵子 | 吉澤希 | 松井風花 | 山本琥士郎 | 小野寺悠枝 | 渡邊円香 | 阿部愛紗 |
| 荻野航平 | 三田早稀子 | 嵯峨百葉 | 三浦桃果 | 白鳥由柊 | 藤本理子 | 小川壮久 | 北心結 |
| 松田結珠 | 清水唯仁 | 日比生有希 | 井ノ口のい | 小谷有陽 | 西虎次郎 | 岩間温喜 | 香取咲菜 |
| 羽田野瞬 | 村田湊介 | 後藤沙彩 | 福留匠翔 | 藤井壹路 | 片岡航也 | 増田悠希 | 小泉由芽 |
| 櫻木陽 | 金丸蒼空 | 山梨楓 | 三橋優葵音 | 赤木友一 | 佐藤冬星 | 江頭凛 | 青山景 |
| 葛西琴巴 | 錦織さち | 武田康汰 | 塩崎琥白 | 小林由依 | 中林大晴 | 高野真菜 | 大口空良 |
| 平賀智基 | 後藤龍星 | 斉藤悠真 | 杉本茉緒 | 岡橋蓮 | 河原礼佳 | 林序一 | 時田宗祐 |
| 神津興宇 | 大石怜 | 大内南未 | 中島弘貴 | 船山澗介 | 榎千与 | 加藤玲 | 福原愛子 |
| 鈴木健 | 足立侑里花 | 野澤里彩 | 島山優乃 | 渡辺柚希 | 井川輝一 | 森翔太郎 | 山崎穂乃 |
| 中野晴耀 | 鈴木明志 | 西川怜亜 | 渋谷美喜子 | 浜田彩花 | 篠崎景太 | 太田結菜 | 佐藤空翔 |
| 伊山悠月 | 戸川聖稀 | 中村留希 | 田村紘之 | 具志堅瑛菜 | 鈴木ひかり | 山岸叶音 | 東村凜 |
| 平野真旭 | 小林大洋 | 神谷碧海 | 瀧名瑛太 | 具志堅莉菜 | 荒井莉太 | 草野心音 | 三宅彪文 |
| 中原一咲 | 原直史 | 佐藤悠太 | 山中千代 | 名嘉星空 | 遠藤勝真 | 清水翔斗 | 青木慈京 |
| 小川碧 | 米山蓮 | 五島武志 | 田淵葵 | 小田結衣香 | 落合香汰 | 川島大夢 | 遠藤隆晟 |
| 川本来海 | 高橋留杏 | 緒方柚季 | 牧拓人 | 掛谷陽織 | 古波蔵恵方 | 内田晴樹 | 藤村生弥 |
| 島海碧衣 | 笹川舞桜 | 谷川遥一朗 | 加藤美桜 | 前廣茉莉安 | 岩村和真 | 法村一輝 | 高山瑠歌 |
| 明壁舞依 | 鈴木葵 | 松谷彩希 | 宮田果歩 | 中山敬仁 | 奥田彩香 | 猪又美祐 | 櫻井恒河 |
| 小山将義 | 河合祥太郎 | 竹内遥太 | 西川佑都 | 川瀬大成 | 池西智瑛 | 安西粟 | 高橋優里 |
| 多田結理 | 橋内愛里 | 三坂倫矢 | 宇井一希 | 堤唯莉 | 高濱凛 | 坂井来都 | 鈴木悠太 |
| 千葉美月 | ズンズン | 鈴木修司 | 吉田玲央 | 高村奈央 | 種村結乃 | 秋山伊織 | 田中希咲良 |
| 脇阪茉侖 | 佐藤優璃 | 川口桃 | 北川倅也 | 山口愛依桜 | 庭田碧巴 | 宮崎そら | 小田島風音 |
| 安藤心結 | 森翔陽 | 古田有希乃 | 菅野紗良 | 岩田碧 | 山際心 | 酒井芯 | 石塚航士郎 |
| 吉岡莉里杏 | 相蘇楓 | 西川喜茂 | 三宅結心 | 今井環 | 徳田瑞季 | 上野宇太郎 | 小谷瑠那 |
| 松尾晃汰 | 宮坂和希 | 鈴木暲道 | 小幡理樹 | 小山かなで | 竹中彰 | 渡邊佐保 | 遠山美和 |
| 柄原雪音 | 松田結斗 | 鈴木暲道 | 小幡理樹 | 吉田柁弘 | 渡邊佐保 | 遠山美和 | 加藤春之介 |
| 野川寛太 | 沼田英奈 | 木村すみれ | 川上哲司 | 富田然 | 江上ゆりあ | 佐野大輔 | 清水翔也 |
| 鴨頭陽香 | 伊藤ありさ | 阿多駿輔 | 関根揚 | 春日紘仁 | 中山晴菜 | 平野のみ | 山田紗英子 |
| 柴崎紘大 | 三ツ橋旺佑 | 水井球人 | 石川弘樹 | 上野山博己 | 光瀬聡太郎 | 鶴木結衣 | 安淳之介 |
| 出水美緒 | 安本瑠莉香 | 佐藤泰太 | 松井信繁 | 田村歩夢 | 長島世莉 | 上野怜音 | 土肥大智 |
| 高橋瑛美渾 | 土田匠真 | 下久彌帆香 | 小野崎立輝 | 竹中悠真 | 眞田歩美 | 佐野杏莉 | 三宅春輝 |
| 杉山咲多朗 | 高森陸 | 井上莉緒 | 上里悠人 | 蔵並七輝 | 村長希春 | 園山のぞみ | 塩野春音 |



創立六十周年を迎えて

創立六十周年記念大会は梅雨の晴れ間の良い天気にお恵まれて開催する事ができました。ご出席いただいた多くのご来賓の皆様方、年長の保護者の皆様方、幹事の皆様方、そしてこの日を迎えるにあたって準備して下さった父母の会役員さん方、改修工事に携わったすべての方々、深く感謝申し上げます。

式典の式次第がすすみ、年長児による園歌と昨年から保育活動に取り入れた、日本人が日本人であるための美しいことばを学ぶ「ことば遊び」で覚えた漢詩・孟浩然「春暁」の披露を致しました。前日のリハールの時は会場自体に慣れないこともあって、繰り返し入退場の練習を致しましたが、当日はどの子も緊張の面持ちの中、立派に役目を果たし会場から沢山の拍手をいただきました。

保育室に戻った子ども達も「今日が一番かっこよく出来た!」「ドキドキしたけど、みんながおーって拍手



おーって拍手

ジブリ美術館へ遠足

6月24日・25日・28日の3日間、年中児がクラスごとに三鷹市にあるジブリ美術館に電車とバスを乗り継いで行ってきました。

最初にトトロの出迎えを受けて大喜び、次に館内に入ると素敵なステンドグラスに描かれている宮崎駿さんのアニメーションの世界が目飛び込んできて、それは夢の空間にいるようでとても楽しい一日でした。



してくれてうれしかった!」「お母さんの顔が見えなかったけど、後ろまで声はきこえたかなあ」「神さまにもきこえたかなあ」等様々な感想を持ったようでした。

記念大会に在園していたことと共にきつと忘れがたい良い一日になった事と思えました。

そして、「百数名の子ども達が会場に入室前、静かに待ってられるのも、ことばあそびで学んでいる成果が出ているのでしょう」と、ご出席いただいたお客様からお言葉をいただきました大変うれしく思いました。

教諭 服部仁美

奥田万葵	島津新	中村瑠菜	宮川莉緒	杉岡瑠音	平田智基	曾根隆世	山口いずみ	糸井遙	武田珠来	貞森凌太	牧野紗永
山口真央	小澤生桜	荒木芽玖	新田准	長峰凜子	新井堅士朗	杉江良太	中井優理子	渡辺初春	木下蒼翔	景川晴悟	福島俊輔
桑田咲歩	大貫重央	上田優衣	澁谷ひまり	山崎美陽	池田晶一	伊藤優杏	井出兼正	竹内大稀	種田侑展	吉田純	武智悠真
前田美瑠佳	米田詠音	小貝美結	高橋祥太郎	山下千結	舟橋祐花	坂口聡美	岩上春斗	菊地真麻	松廣淳子	饗庭康希	矢吹歩大
中井李里	大橋悠梧	本橋希実	河野礼芽	朝岡真知子	藤田航	牟田光希	坂下央士郎	一瀬祥	岡留花英	児玉魁士	渡邊春雅
合田奈那子	大石凜太郎	土屋安悠斗	有川綾亮	瀬川明莉	堀見杏奈	松本紗弥	岡心咲	鈴木風馬	小野木春哉	雨宮優	片桐来海
平尾唯莉	木村春菜	長島愛華	阿出せら美	永山茜	田中誠太郎	金子晃人	保科風生	富留聖美	竹内遥	早川生織	片岡隼平
久保結子	佐賀山未和	益田結愛	鶴田友樹	佐藤春斗	星野瞬翔	島村美梨	橋屋陽生	大竹由明	小林海翔	瀬田晴陽	佐藤航大
丸山さくら	西方裕人	林優空	仲野魁人	天野利央統	松村隆之介	小椋海音	坂根茜	藤木藍	黒田俊人	勅使海乃里	村野瑠璃
三橋彩香里	大河内瞬	豊島にこ	鈴木友翔	石井佑果	栗原萌生	池田友喜	今川蔵人	黒田俊人	丸山隼	赤坂南朋	山根笑子
秋本幸輝	佐藤眞優	木藤優花	馬場慶尚	古谷井久馬	柳智朗	池田広喜	山口陽菜	宮崎優奈	小泉柚希	大野藍莉	加藤駿弥
井川沙美花	鈴木葉太	前田凌玖	佐藤みゆう	山口幸也	岡本美紀	田邊颯樹	山岸奏太	日向俊太郎	高橋優奈	吾田幸平	田村莉菜
田中晴憲	浅海幸佑	前田凌志	吉澤懂	榊原那佑太	関谷美渚	木全桜	三島希巳	星指晴人	高橋慶久	星野杏奈	平林快人
根岸遼人	高井一	千葉文乃	吉澤凜	白石巧	佐々木誠太	深澤眞優	今安慶吾	西林美緒	和栗甲依	関根泰臣	塩崎正也
黒川紘生	佐倉陸斗	瀬上楓華	石橋俊	藤塚虎太郎	吉田三々	西村奏音	石崎結衣子	神成咲希	伊藤千嘉子	島崎裕輝	一志雄大
久保日和	山口穂奈美	住友翔一	穂吉晃一	山崎咲菜	辻琴子	三間景斗	菊池百花	赤瀬美結	マコト紗耶子	寺田菜々果	後村篤
春日路空	茂木優里香	神丸真理子	伊藤優樹奈	宮澤翠	御厨海平	奥田小晴	渡部莉亜	平松青空	藤井穂乃珂	森岡優	辻水面
森文乃	沼尻心智	高橋一紗	平沢巧真	堀真博	吉川楓音	森武志衣	五十嵐緒音	関根瑛斗	飯塚大喜	山口未結	加美蒼介
川田一輝	佐々木遼	味元有紗	宮田隼	久保田花	伊藤大輝	麻生優芽	佐々木陽向	田村玲太	佐々木友輝	中桐麻希	鈴木景都
持立侑士	田代安里	大久保智敦	國安亮千乃	若見悠理	新倉颯斗	高柳佑衣	白井啓太	富山歩夢	清水蒼太郎	小林想晏	近藤灯朗
林賢太郎	吉里大雅	中居大地	國安卓千乃	岡村優吉	山中翔士	今吉華乃	白井啓太	白尾桃晟	田村哲治	吉田量	小島千明
竹本柚希	太田七花	北畑凜太郎	舩谷陽	滝川菜緒	湯脇春	村山幸翼	河村琉正	内藤寛人	並木晴翔	丸山心輝	中村茉惟人
阿出川善	和田泰生	加藤篤弥	河野凜	菅原虹太	曾根奏	高木咲良	武藤玲奈	和田壮太	升澤瑠日	田邊結人	佐藤大陸
小林うらら	浅井生夢	黒木茉莉奈	河野凜	樽井洗佑	平野眞帆	光成基	山下寛太郎	桑名映翠	本間未桜	山口焯介	宮井陽向
白石稀意	原かがり	安藤春貴	横山すず	杉澤瑠音	塩崎まりい	今野慧南	山田椋貴	外園泰史	南部晴大	山口瑠介	丹野英太
竹内もな	安藤春貴	横山すず	仲本連音	岡光花乃穂	西梨衣沙	湯川純平	柚木一芽	手島主翔	小山颯樹	伊佐山新大	内藤茉莉杏
国島諄人	星野優太	馬場裕子	石川葵大	星野紗希	東城士暖	早川咲音	山田椋貴	鶴田尚一郎	本多小雪乃	牧本光城	宮澤恵千
新田英樹	重政凛	石山陽葵	石川葵大	岸真菜香	寺崎耀	瀬戸彬史	中村里桜	徳部理利花	米谷翠	山本耀介	古元翔志朗
相澤智起	杉本倫太郎	清野結愛	内田結菜	古村雫	川上陽代	櫻井すみれ	山口瑞葉	加藤遼大	中島愛莉	中嶋奏介	鷺見笑加
石井葵	山崎翔陽	高野眞優	東田中途也	小仁所泰地	柴田哲吾	荒川晋弥	武田頼景	平山一芽	田渕さくら	吉井希	高橋虎太郎
新堂照太	石澤沙来	神戸開渡	田中梨咲	星河潤	鈴木那步	古泉朱音	小嶺晴登	柳田奈都	寺崎太篤	村上姫菜	荒木宙
山本悠貴	岡本知也	森紘	加美川晴太	藤岡柊	鈴木菜の花	荒尾尚麻	榎山眞太郎	吉澤慧都	永田陸	稲垣知真	中村優那
石田佳嗣	佐貫珠実	森玲	坪咲希	古岡柊	中塚さくら	大橋美絆人	宮川真維	稲垣奏音	橋本理沙	中村優那	田中瑞城
小宮虎之助	上村彩真	鎌田実桜	岡本瞬	星河潤	鈴木菜の花	荒尾尚麻	近藤大河	吉澤慧都	橋本理沙	中村優那	田中瑞城
平山景都	渡邊遙大	石山友彩	松崎将希	佐野友香	河喜多結子	中迫百音	菱沼亮太	吉澤慧都	橋本理沙	中村優那	田中瑞城
日高和人	金子奈緒美	山本音彩	大木篤斗	宮原直人	中村琴音	奥水楓菜	石津花瑠	稲垣奏音	岩本紗季	佐野希実	田中瑞城
吉村虎葉	黒田琴葉	瀧川菜乃葉	堤理紗	宮原直人	中村琴音	奥水楓菜	石津花瑠	稲垣奏音	岩本紗季	佐野希実	田中瑞城



七五三詣は男児三歳と五歳、女児三歳と七歳の祝いで三歳は髪置き、五歳は袴着、七歳は帯解きとも云われております。(生まれてから七歳になるまでに様々な儀礼が行われるのは、古来より「七歳までは神の子」と考えられていたからです。)

また、昔から11月15日には氏神様に参拝して、お子様の成長を感謝しこれからの健康を祈願致します。

祝七五三詣

七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：毎日朝10時～夕方5時まで開催

七五三年齢表	
七歳 女児	平成 16 年生
五歳 男児	平成 18 年生
三歳 男・女児	平成 20 年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

應神天皇壹千七百年式年祭記念

大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月15日・17~20日

大宮八幡祭り(秋の大祭) 例祭 [15日 午前10時齋行]



宮司ご神前に祝詞を奏上



舞姫二員、浦安の舞奉奏



氏子・崇敬者等来賓多数出席し賑々しく直会が

大宮八幡祭り(秋の大祭) 氏子奉幣祭 [19日 午前10時齋行]



赤誠籠もる氏子幣を唐櫃にて捧持し参進



氏子幣をご神前へ奉献し拝礼



佼成雅楽会による舞楽の奉納

氏子町会神幸所

大宮地区

(宮元会神幸所)

大宮一丁目町会神幸所

方南地区

峰睦会神幸所

(峯栄会神幸所)

新栄若睦会神幸所

泉南睦神幸所

方南西神幸所

方南東神幸所(上)

方南東神幸所(下)

和田地区

和田睦会神幸所

和田敬神会神幸所

和田仲組神幸所

和田南神幸所

和田東神幸所

松ノ木地区

松ノ木睦会神幸所

奉納 神賑行事



園児民謡踊り [18日]



方南エッセイ踊り [18日]



杉並太鼓 [18日]



宵曇参進 [18日]



小笠原三九手狭式 [19日]



表参道露店 [18・19日]



十五夜の神遊び [20日]



菊被綿飾り [9・20日]

大宮 第88号
平成22年 秋の大祭号
平成22年9月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570
東京都杉並区大宮2-3-1
電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp